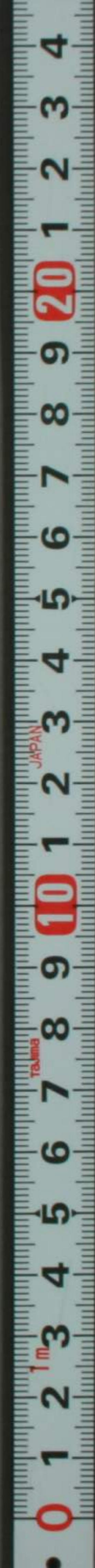


長壽夜話州 四

烈	直	貞	孝
女	民	婦	子
	義	清	忠
	夫	民	夫

速  
1.451  
4



川邊  
1451  
4

長崎夜話 四

さうふ入るは異あやし船乃物さうふ萬國乃人  
乃ありは山草本にありはくわくわくあや  
さうふいふ十いそ六むそ十じふれは公積て岡をさうふ  
多う終と一つくうたつまんとそくさうふい  
所ところのゆして今乃世のさは鳳凰乃卵たまご子麒麟  
の鹽人しほびと眞の鄭ていをさうふ吟うたりて異國物倍して人  
を欺あざむくをさうふいして多うればそのさうふかた  
さうふいをいさうふ記しゆればさうふ人乃國の織  
物錦繡きんこうの多うさうふを國てい見と着きんさうふを

長崎夜話 四

新くは珍菓美人合私國之海口涎を流し珠玉奇  
財の多き事とて夢てい求むくもこれより後を  
ねとているべしこれ人のさほされど異國の人も  
善行あるは夢て我國の人の公け鏡とて人  
のちたいたふぶや唐土のしりしりいゆわくれ  
書かちるし郵傳とい思はれしきこく鏡と  
ちこく我國の事をばくくともくくくく  
をけくくくく田舎か京あり遠くもくく  
と美まんよりのゆく我國は美びくく  
珍寶又我國か多く求むかちるいて事はく

ぞし長崎の津六十餘列は對して九半は一毛と  
ら孝子忠ま義民貞婦とほくあり異國の珍  
貨海をくく沈没とてい惜む人多くはくく  
乃金まは津の水をよくもれと惜む人のか  
まぞあやしくふんざりて代をばいといんかの  
り見聞しやぶをくんでくちるくゆくと異國の人  
ふとくくくはくくは我郷の傑もなる  
あんとあやしくゆをくく今け叙むたといとわたり  
してくは夷中れ浦里藤くくくはの終く  
乃子にくくくく身をくくくく

ふもやとみりしよらんけり

○長崎孝子六人

寛文の比りしよ長崎今緘屋町といふよ是を居  
とうや身賤しくその家甚く貧乏者いふれ又  
を告るいふ者なりけは又いふもむく目盲且老れま  
その相りしき病いと甚く命母の早くうせ  
けしあうもかへきとむらう父とやうしきやうま  
住居しけりぬ生計れいふもは菜の影ひ菓の  
くさぐさで商してぞ又をい告るいなる釣毎よとや  
祀物れい先飯炊さ父のこあうの物よとらうけ

又いつのや遅くかまらり事なれいゆと寝ては枕  
のこふ父のうけいものこらう人きん金飯の室に  
わりあつものい室へあつてつぎかやゆのまこと食  
わもこの賣物もらつゆりふ早と母の二時ぶらうり経  
しうらうとたうて帰まごうとてありおつて目  
かうりけゆをうらふ父あつて終るがふよらうか  
ひあつて甚くよとをよとをなると凄くいしてやせん  
おぬし道ゆく人乃ゆあつて道よとてくはれあふ  
告あつ河の菜の菴をよけをけくうとらうと  
又さうさかひゆいゆとくたぐとあ湯水のちとて同

はくを乃祢ぐいとうきて安あ志づりてぞ又い出ま  
 せり高いそそくうあまに悦欣をしいさるみ  
 父母ともゆのまじり多ぶあ又あとのうらね求  
 多とり志づりああつて父のあやまらうあうあう  
 其あうあゆりあ父の病いんつうく様さうとお  
 ぐああにぶあうあはかしの様さうあああ入  
 多あうあうあうああうてあうあうあうあうあ  
 とてい父のうこつうああゆりああうああうあ  
 くあああうあうああうああうああうああうあ  
 終るは終るは時乃刺史なり河野通定

君よはをえてめいしり終る鳥目二千疋とあは活  
 いんあ一郷のあうああうああうああうああうあ  
 多あああうああうああうああうああうああうあ  
 かりあはあああああああああああああああああ  
 又子許へをあああああああああああああああああ  
 つあああああああああああああああああああああ  
 さあああああああああああああああああああああ  
 多あああああああああああああああああああああ  
 かりあはあああああああああああああああああ  
 の官役あり畜教乃許へをあああああああああああ

して追志つとゞきあしぬをわりの人のみなほお  
しつゆりぬ甚き布後の中身も饒よすぐして  
父も安らふ終りぬ年経く身も志あつふ子の  
あけきと猶子ありて追志はまてゐぬく孝いん  
もてくゆりぬ

高雲禪寺の宗職長老の本肥前國の産かり  
當ち任職の中一人の志母ありけり孝い事  
極めく孝あり母常に美味ぬ好りり宗寺中  
の制禁をれと母乃りつと比りぬありり多しいと  
今も堅く止りゆらぶ志ぬらつらつとわくわく

壽を執らぬとくんとやと時く並に賞めりて先  
門脇ならぬのこを執り其家にて佃味して母にと  
すめゆりぬ寺食しけさばけりぐとと下僕にわら  
ば常に出るふ人との供人もありある時一人市所  
をけりふ母のぬりり鮮と魚を賣りあり悦び  
る事そらり好知人よ錢と借つて魚と賞葛と  
らやりのものぬけりぬととんづりり提りて飯  
をそ例乃門よりたから屋を調味して母にと  
めゆりぬとと母と志とる乃誠深くて人  
の褒貶をゆりり身の名聞をえりり也

是とてよらんばねらるるていついぬよたは  
師から来るとさるぬ年経ぬ母と寺とて終  
つはく其身い他方とて遷化<sup>せんげ</sup>なりとて学  
才とて大さるぬ人からとてとや

延寶乃比くよ清水寺あたる所に<sup>ちか</sup>布仏  
ちあつてつふおのこわり一人れも母よはく人  
孝ありしこの家久しく續つてふたれど貪くと  
下人れあつて妹<sup>いもうと</sup>とて二人あつて物きやまの  
いさるぬつとらて母を孝ひくる常に母れ好める  
このあまはとて謀<sup>まか</sup>つととめてすしうばといふ

まに親<sup>おや</sup>とて人あつちあつていつ終いそこよは年と  
やのつたぬるふ妻<sup>つま</sup>をばいつせりそらぬまやとい  
さしとてさつとと妻れとて母の孝ひぬらとて  
母乃をたにけいけいすいしとて罪<sup>つみ</sup>得んぞ  
母のさあめと中くわらうぬとて終<sup>つひ</sup>く妻とて  
てとてやまぬ母年きいまり力まらぬわらぬは  
常に佛よゆでけく母の後世弘<sup>こう</sup>新<sup>しん</sup>ぬ或夜乃  
まゝ母ゆとてくあつていつく終乃孝ひなり  
てあに在りかど何の苦もあけさば心の罪あり  
静よ安らうとて人死して今言ふよあつぬと

告知たぬ姉ありしおれと後のさぬさんいひ伝ふ  
ゆくほい千歎せんたん禪師ぜんしよりていりていりていりていり  
供養くやうと頼たのて益えきく母乃冥福めいふくをいのりていり  
—こらて

同郷おなじ桶屋かづや所ところといつた。置おきていりていりていりていり  
先まづる人々ありていりていりていりていりていりていり  
を久吾衛くごゑといひ妹いもうとおれといりていりていりていり  
十じゅう子しよりいりていりていりていりていりていりていり  
先まづぬ又またいりていりていりていりていりていりていり  
て二親ふたごころと神かみ人ひとといりていりていりていりていり  
七なな十じゅう

おまういりていりていりていりていりていりていり  
おけいりていりていりていりていりていりていり  
あうりていりていりていりていりていりていりていり  
をいりていりていりていりていりていりていりていり  
妻つまのいりていりていりていりていりていりていり  
いりていりていりていりていりていりていりていり  
としていりていりていりていりていりていりていり  
のいりていりていりていりていりていりていりていり









よりい使しふ小神ここもあふ家い一人くおれまを  
 世せにとぐらんよりのこれをまさらりねこのままに  
 いいひのゆこせらりを終じぐ我らのあらじのこん乃  
 却かえらがいふ小成ゆと終いてんともまいくゆと  
 かくてぞ言いひゆりるるふゆごのままや通い  
 ころもん今年正徳五年お月時の刺史之岡が  
 君い笑えるけい孝女をめまれんとまいい終りて  
 米十倍ちる子十枚と賜いるのかりさはめれ  
 見みれぐとやんをとてあかりとまん  
 松まつ本もと加か次じをあつとるやはまえかのこ二十ぶらりのは

しや松まつ本もと氏しなら者の孝子に成り異い國こくの松村むら番  
 士しあり忠實あらる家け業と續つけ加次をあつ告らえ  
 母はけらる事甚い孝たり父の元祿のは身ゆり  
 ありそのの在世のかどはく人事いくこいんさ  
 かり父をせゆりとほ又るの母はけらる今は此  
 あり母える常に自遺乃病方を夜晝やま  
 たいゆんと様に加次をあつ常にんらる不  
 淨じよを洗いとだていふ事をとまさる人を  
 諫いちらむで妻ひとけらるとらざる中にいふば  
 妻とて他乃人をれいふとらゆりて母れらる

客うるはしとて妻をよめとてをいづつうい  
 たり母ははるてうあつらるる唐船の儀りめも  
 ぶおろしつひは恵もおきり婢女のむらりね  
 こまごおのうつらへぬに洗ひそむをまきこ  
 しうと公事乃けあつて帰めしつら又つらめ  
 めくぬぞけくらのあつたは世にうらなふ  
 々しむ河乃刺使永井良も笑つてつらて感  
 じおがして其役士乃府長うすめあしきら  
 りの二十枚去綿二疋と賜ひぬ母の徳乃は  
 所ゆらうて追と程うらうと妻をいひえつらる

ひしうらのかきまや孝子の多しとつらとのおのこ  
 を看し父母よの受得し文はあつてをのづつら  
 ら父母をさつらうとけうらも多けれどおの親  
 うけく多至孝なら事お決たつらぬくならい多  
 うに仁者いふれに勇あつらういふあれいけお乃  
 こつらと人のさうとねぬくつらね

右の外孝子か多うりしむせうけうら人あつ  
 をあつてその他人を失いけうぬ何なりは

○長崎忠ま一人

寛文の比奉律屋所とつら浦川七た衛門いふ

一おのこあり父い負くて細家なご時をいぬま  
 ぐ人の家の奴子とちかして年久しくはくぬぬは  
 眼とらて世もろふもまこまて母をあらひまは  
 ぬももせも後高しのつごをいおこてそ身を  
 告ぐのそおとて程とせぬとどくぬ奉けうく  
 主人なるは世もはり家おろして念と身とぬ  
 幼年もく子もあくるもろふたはなるぬ浦川  
 いとろれとせしめく我もておれとて信おのこ  
 守るぬ河よりぐもまい一恩りもれゆぬ今其  
 報いとまごちま人と廣くぬ極しじく人入り

一おのこあり父い負くて細家なご時をいぬま  
 ぐ人の家の奴子とちかして年久しくはくぬぬは  
 眼とらて世もろふもまこまて母をあらひまは  
 ぬももせも後高しのつごをいおこてそ身を  
 告ぐのそおとて程とせぬとどくぬ奉けうく  
 主人なるは世もはり家おろして念と身とぬ  
 幼年もく子もあくるもろふたはなるぬ浦川  
 いとろれとせしめく我もておれとて信おのこ  
 守るぬ河よりぐもまい一恩りもれゆぬ今其  
 報いとまごちま人と廣くぬ極しじく人入り

うらやまの者い武家よ生んでたやいあ人  
すくまふか賤一さ民れ中いいよま其ぬぐいを  
不問汝い人倫の禮をうらとぬく歎矣信い  
てあらうの十枚を賜うらぬ又程よく誼訪社の  
修理役よ命ぞれ後一かよて其所の長役  
よまされてけ二役とて家豊ふ栄くくすく  
ゆらぬ浦川一日河形君くゆらぬゆらにけ  
おこの月額うらうらふてうめい髪結る  
をんまい汝が頭のとほおのぐまよあまをた  
いぬいと問まいふ豊うて吾がけけよま

より童いぬ及づる程かいら髪よ虫の多く出来  
わらそまらうらうら髪と料ららまいうらぬ  
いとゆ地うらうらと其後とてあまゆらぬ主人  
の形見ふゆらとそまらぬ君といふあいまいと  
くや浦川くく河長と社役とぬつらあかこて  
七十許の髪とて所まらぬ子のあら子とて家とけ  
く人ゆらうら

○長崎貞婦一人

津智尼い長崎築河の産うらうらと年眼鏡屋  
友田氏から者の妻くまらうらうの天性常に怒の

名をみど又ほび先よ交を同く人なり順貞質直  
 かり友田は嬉としてじとち一人をゆわけては三十  
 とせらうりちるふおの子になくて友田が甥二人  
 孤ありと浄智とちと告りあかのときが壽か  
 のよ異ぢおのう者しじとあの人よ嫁してそ  
 け若ら子とぞいとおかこゆかこそおはじひひい  
 きぶらあ母らりあ事あうそ二人をうり外に遊  
 ちらぞまぢ浄智らりあれとゆらんとてんとんか  
 くてひらとさうらあ何浄智まの友田といつ  
 らとさういやむらひ子とあぞい終まらぬの

ちるあるたそれこの齡乃いまさ餘りあらん  
 又と人をもひら多くして末娘はゆわけまかんと  
 産くいとちとらうあれこあことあひつ  
 中より一人をのちとらう終つとらう家  
 母いさういぐあ有りと人並て我身は異ぢるあ  
 ちあぬ一又いじとあたはう家らり終らして  
 目とぞさうふら新妻やぶらくおの子とせり  
 一に浄智といふらうして夜魚ふとらうよ若  
 い母乃いまさあんとおこらうもやさんとあつら  
 一竹をいしてゆわり育らうらうとさうり決く



おの子二人二人じまいたるも、今の安んずるに、  
 つく後乃世れまあけして、がらゆかへ墨乃衣  
 了引之て、よらぞ浄智とは、安んずるか、  
 日公より傳ふけふる事、念はして、西徳一を  
 の林七十げりあて、正しく静よ、終り、  
 まく、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、  
 大よ、ゆて、まが、けら、事、を、悔、く、  
 と、母、よ、ゆ、れ、く、地、く、ゆ、さ、  
 親母、ちり、く、ゆ、い、て、あ、た、  
 月、ご、の、其、日、よ、は、う、あ、  
 お、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

う、このは、娘、姑、乃、人、念、ま、さ、  
 女、乃、賢、貞、あ、る、い、世、  
 多、い、あ、り、と、ま、は、は、  
 小、婦、女、れ、  
 今、

○長崎清氏一人

寛永の比、大村所、は、布、を、  
 本、泉、列、乃、存、を、  
 長、崎、小、島、を、  
 住、居、  
 と、な、り、妻、を、  
 子、を、  
 後、に、  
 人、乃、  
 賞、り、  
 生、計、

とてくろくしきまてに沈の中に身を捕られ一本  
 箱をとありしと見まつて神をろくまていそたろの  
 ぬしから唐人よふへしりりたれは甚に怪しい感  
 して日本の賢人なりと敬むい貴しいなりなり  
 やうやうれんはななりは唐土人なりなり輕に  
 敷まてあらんなりこせしりりなりて一とせ入  
 津とし船の旅館と稱せらんを船をより  
 するがらん公をし書付くしゆりしゆりしゆり  
 布を屋をとせしりしゆりしゆりしゆりしゆり  
 汝を旅館し免許あるべしとせしりしゆりしゆり

其の長崎の女をたつるなりしゆりしゆりしゆりしゆり  
 ともたつるがし高家と旅舎と定めありしゆりしゆり  
 荷物を悉く宿のありしゆりしゆりしゆりしゆり  
 事のゆめゆめ一夜がやどいしゆりしゆりしゆり  
 ありしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
 是とありしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
 のゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 沈を高くをゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 かりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
 身體の勞と脚をて家の常に静けり也何そ

異國の客に宿するの苦にんとてやと辭し  
けのよ退るといひしつとて餘のよこはれ  
らるる一七十ころをりや病くおよ臨み  
す人屋宅家財を門のりけしむのむ婆を  
男女ろもしく遺言し華具塔婆ほりまごの  
事共まで念ひしつとてあをく終るめせし  
足るぬおる者希かりしを市中にありて  
世を不受安逸清潔乃報市中に大徳と  
いふやうなりが幼きとは社又たながおるぬ  
倍つおゆりしとやいおくくさんとはおるを

俗名の布を又多衛とらやといふ

○長崎直民三人

明暦のはらとよ演の所とつよは崎京や市を  
とらやといふ者あり十二月神事ふりけり  
初用ありとてそく物く演たる踏とゆくは  
すふあやき物とくくみまよとてあを  
あてうやめした体をも肉よ白根とかり  
げらうとやかりとさあり神とらとて  
づきあれはやとてらるるのあを  
二時ころり待居るといふ

旅人のかきせしやんとそとそと此所々より旅人  
を宿と家とふるのりて旅人のよのきひ給  
つるやどやあると旅人よとよとよとよとよと  
夕はさかしてわいりりりわいりりりりりり  
くらぐりりりりりりりりりりりりりりりり  
袋乃きりりりりりりりりりりりりりりりり  
我の薩摩國とそとそとそとそとそとそとそと  
賞求りよとそとそとそとそとそとそとそと  
わととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと

常と取あぐる事なりとせひいらめくおく酒と肴  
を調く念ひようやまひものてととととととと  
薩摩國とそとそとそとそとそとそとそとそと  
物結ととととととととととととととととととと  
わうじおのて質素正直とそとととととととと  
とのととととととととととととととととととと  
もわととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと  
津館の手りとととととととととととととととと  
古今同郷の内ととととととととととととととと



は袋のちりちりゆりたを拾ひたる内へ金銀乃  
包らるる粒々して強きガシ入るるあくそりきる  
いとほわとより袋主の君のあへん我跡を追  
てあへん我名はくつよものそ小舎の宿は  
何うして赤間う関乃宿はとれちりちり  
あへんい系なる宿はいつとかりと垂くくそ付  
あへん小舎をそと追らるるよ不意なる関  
へ追りて二日と百風待居りしよ袋わし中  
追らるる我の系ハ備ふを坊乃使僧して  
院前院後のらふ新念のれゆちりゆして神虎

乃物百集くろりのちりちりんととらふ馬替乃在  
して金銀入の袋と共いゆりて十方めらるるふ  
あへんい系なるい一率も書付たえゆりて海  
神乃ゆきつごうやと中めくう神して思ふそ  
追付らるるゆと念はよせえんゆりてい去るも恨  
いへん袋のちりちりゆりちりや神文神へのちり  
物さるるいも一とまあそおのう物さるるいれは  
神慮も神さるるいも一とまあそおのう物さるるい  
あへんい系なるい一率も書付たえゆりて海  
真後らるるいも一とまあそおのう物さるるい

ゆるぐ都て捨ひらい物も故あつく人と事あるが  
ふと人さ道きんしすこしまきくひい人と  
あんどちこりまねたがひる故にる故らひ  
久と事食しき身よいつ看ぐられたるゆ  
者のおこあひわらふふして正しくぬ物も  
ありたすこしさあやまらうをもちて大なる善  
事と捨付らん仁者の心あわどあまをい  
ゆさやしてこのよまあ故様ひ用らるいお乃  
う公乃師きうんやらんや朋友のゆとりん  
ゆあつくをや

○長崎義丈二人

延寶乃以長崎甚饑つらう小篠吉左衛門とや  
ついで者身貧しとてとらぬゆりるをい  
性酒を嗜たりうんうう酒水軒と早次人は  
淵明えんめいと字あやみなり常に書紙る事と樂たのむ  
まろくもろと撰せんぶ酒わい剛たけとゆりさと  
あつくんとたれ事か一時郷民きやうじん大饑うへの  
乃粥を煮く施たせり日ひてふお千人あり  
吉左衛門甚たく飢うなりとてとらぬゆりる  
事公死しはゆり寺を造つくりて到いたりてはく

奮然のようあはらぐ米穀たして傍もあはれと感  
 じて受ゆさあはらるの條の人米穀をどそり  
 とあはれどみる受どして人々もあはれと我れ  
 周との由緒たなく其人のころめ謀りし切はし  
 由緒なく切をきて受らるは正なるも急  
 難を除んでい他の施しを受られしはあはれと  
 我れもむさうはらるの人は報いさなきはあは  
 り受るとかうあはれむく子身の事よまかきあは  
 り多人の助施さるも人幸と死して仇らる色  
 をあはらさず見真のようして追思録とあはらる

了はあはれて無死とあはれく世の人とあはれ  
 義士の家よしむすれらる人福と難と世にあはれ  
 わらぬ業れみさふり色うてひくあはれと命  
 をそのあはらるいなるふけ小條の市井の中に  
 じりして泥土の露もあはれと色うとせらみさあは  
 せとあはれしういとあはれあはらるうは人あはれ  
 業はらむあはれてあはらる人あはれをいにかあはれん  
 室永の以一人の僧名の義觀とあはれしあはれ  
 唐土人の教い諸てふ福濟禪寺に在て活  
 の守りくらん成らるるあはらるあはれとあはれ





今この義観は師のあのが罪とわく義に志すむ  
まう死とやりぬくまのあつてみぬるをて  
わくころり身の罪とあり禍のいふ到らり識  
わめころり童蒙のころり見きりん  
ゆめゆめあり

○長崎烈女一人

え福のほ福を基くつ者の妻年廿四五ころり  
向ら結貞實たり子二人と有りみ多と云え  
とありまの美をいひ婦を懸想してな  
いざらひたれど志がわづいはらうてゆんすらに

二人の却と捨くくまの心も痛りてそ  
月をこころぬ舅と云りた迫りて迫つと極く  
いさむたれど止りしをねいせんともかくてあは  
日まも舅も子孫つきて外へおく遊びくくみ  
よれたおろそやあひく人幼見一人寝るありあ  
りふい自害志とておぬきまらかふ烈女乃世り  
知人きたるそらわくたれ所の名もまれ名  
も志ろくゆめぬい人乃悪名とあつたぬは烈  
女の本意は志ろくわらうとぬらつて追若と  
かきゆめぬ

右の外若くは人か多しと云ふは富家人金  
 銀をもちて志願を以て人をその感する事  
 なく多し人名利の意ありて仁義を以てし  
 皆是若くは人か多しといふんや重く其財寶  
 と教して若事と云ふ人そや同郷の僅り  
 かりかどいも捨子と云ふて若くは或い金銀  
 をあつて人か多し若くは或い貧人か多し葬  
 事と云ふ或い教導乃利益と成べし経書を  
 開板し數千巻と法樂と云ふ人あり又一人  
 財を捨て石橋を營むるもて性本と佛性

人あり皆仁義忠孝乃徒りあつて  
 事を得んや又は亦若くは今才能乃人多  
 うれし今あつてあつて

長崎夜話四

